

# 授業科目 解剖生理学実習Ⅰ

【担当教員名】  川中 健太郎		対象学年	1	対象学科	健康
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 前期は、“自分自身の身体について生理学的に理解する”ことを目的とした実験・実習を行う。すなわち、自分達自身を被験者として、体力や形態などの身体機能をあらゆるパラメーターを測定する。後期は、動物を用いて、栄養素の代謝のしくみ、また、過剰栄養摂取にもなって生活習慣病がひきおこされるしくみを実験を通じて理解する。その他、人体解剖模型、あるいは、顕微鏡による組織観察を通じて、解剖学的知識を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1) 自分自身の身体について興味をもち、生理学的に理解する。 2) 運動ならびに食事摂取にもなって生じる生理学的反応・変化を実験を通じて理解する。 3) 生活習慣病の成り立ちとしくみを理解する。 4) 臓器の位置や解剖学的特徴を理解する。 5) 実験レポートの書き方を学ぶ。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	前期ガイダンス				実習
2	BMIと体脂肪率の測定				実習
3	人体解剖模型の観察とスケッチ 第一回				実習
4	BMIと体脂肪率測定のとまとめとレポートの書き方				実習
5	最大酸素摂取量の測定				実習
6	最大酸素摂取量測定のとまとめとレポートの書き方				実習
7	組織観察 第一回				実習
8	人体解剖模型の観察とスケッチ 第二回				実習
9	組織観察 第二回				実習
10	人体解剖模型の観察とスケッチ 第三回				実習
11	組織観察 第三回				実習
12	骨量測定				実習
13	骨量測定のとまとめとレポートの書き方				実習
14	解剖学に関するテスト				実習
15	まとめ				講義と演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 レポート・試験と出席状況		【履修上の留意点】 事故防止のため、服装（白衣、上履の着用）、実験機器の取り扱い等について注意すること。詳細は学期はじめのガイダンスにおいて説明する。			